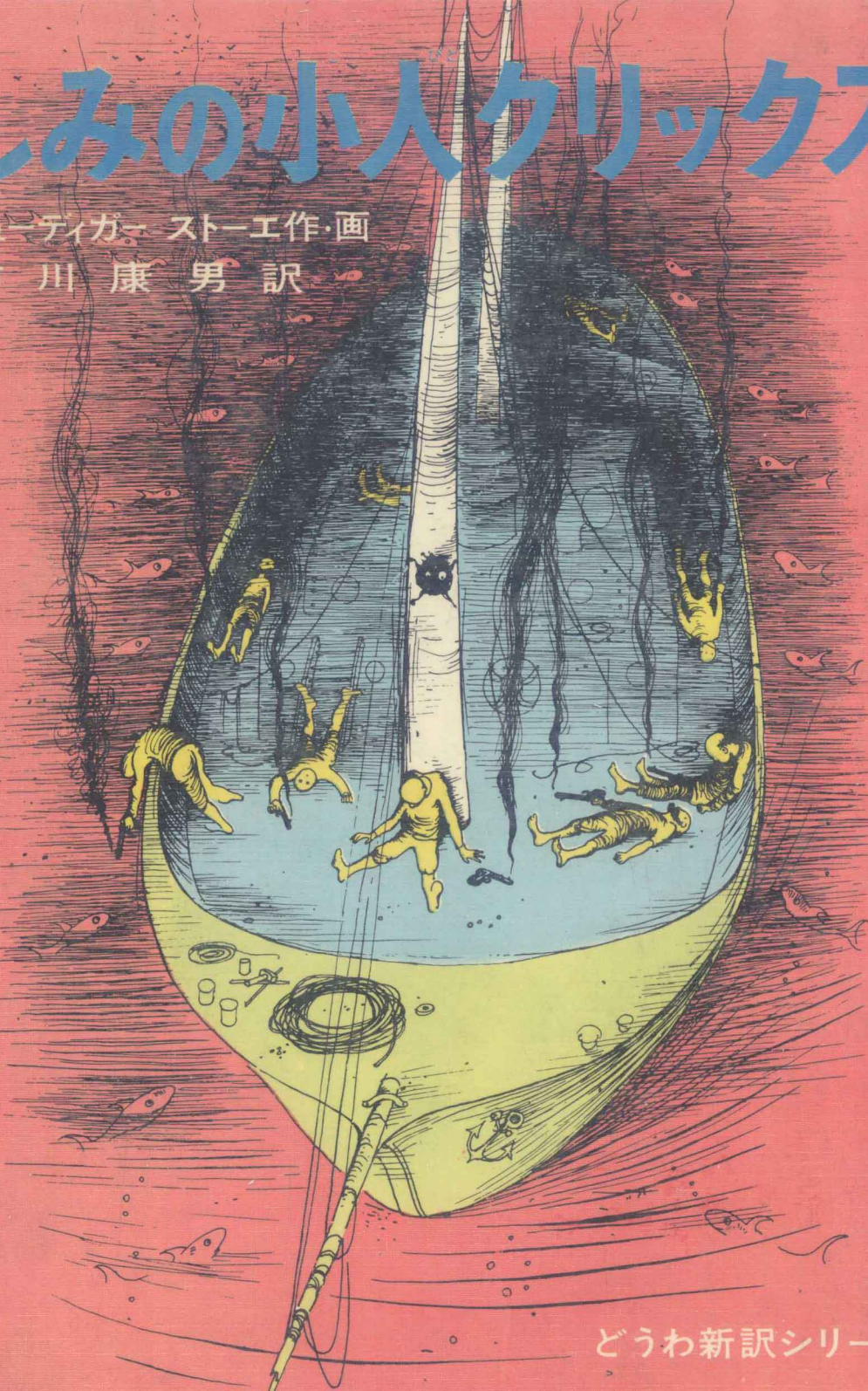


しみの小人クリックス

ルーティガー ストーエ作・画
前川康男 訳



どうわ新訳シリーズ

♣ どうわ新訳シリーズ・6

しみの小人^{こびと}クリックス

リュディガー＝ストーエ作・前川康男訳

N. D. C. 943 偕成社 昭和44年 80p. 24cm

Stoye, Rüdiger : KCLICKS DER KLECKS



検印省略

発行 昭和44年12月20日 ©

訳者 前川康男

発行者 今村 広

印刷者 小宮山敬之

発行所 株式^{かい}会社^{せい} 偕^{しや}成社

東京都新宿区市ヶ谷砂土原町3の5

電話 東京 260-3221 : 振替 1352番

写植 有限会社同和写真植字工房

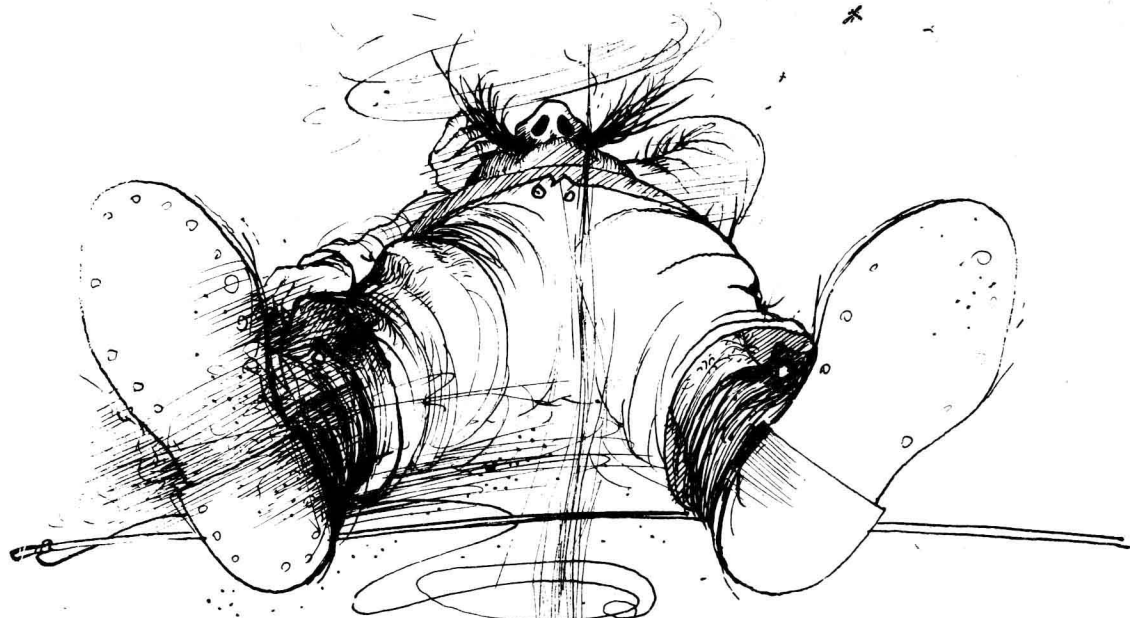
印刷 小宮山印刷株式会社

製本 文勇堂製本工業株式会社

定価 500円

◇ この本は、著作権者オーテンガー社と契約し、独占翻訳権をとったものです。

◇ 落丁本・乱丁本はおとりかえします。

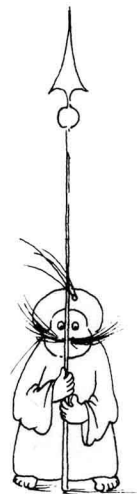


しみの小人^{ひと}クリックス

リュディガー・ストーエ作

^{まえ} 前 ^{かわ} 川 ^{やす} 康 ^お 男 訳





KLICKS DER KLECKS by Rüdiger Stoye

Original German edition published by Verlag Friedrich Oetinger

© 1969 by Verlag Friedrich Oetinger

Reprinting by permission of Verlag Friedrich Oetinger

Japanese translation rights arranged through Orion Press Co. Inc., Tokyo

まえがき

これは、“しみのクリックス”の、ぼうけんものがたりです。

クリックスは、うまれたとたん、いろいろなじけんにまきこまれてしまっています。

小さくて、まつくろいクリックス。

わるものにされてしまうクリックス。

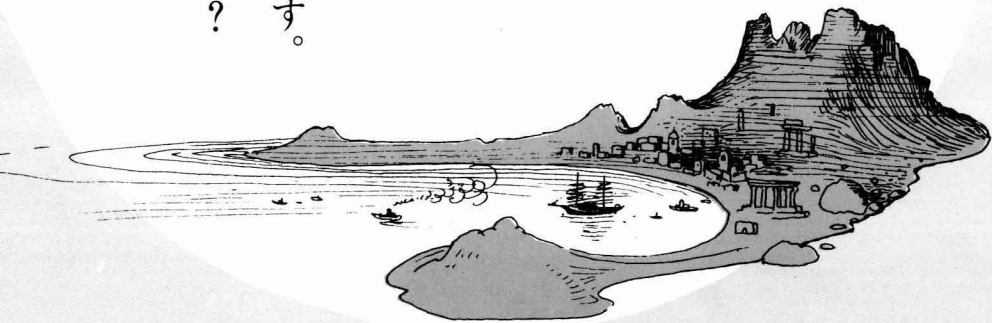
いじめられるクリックス。

でも……クリックスには、ゆうきがあります。

クリックスって、いったい、どんな子ども？

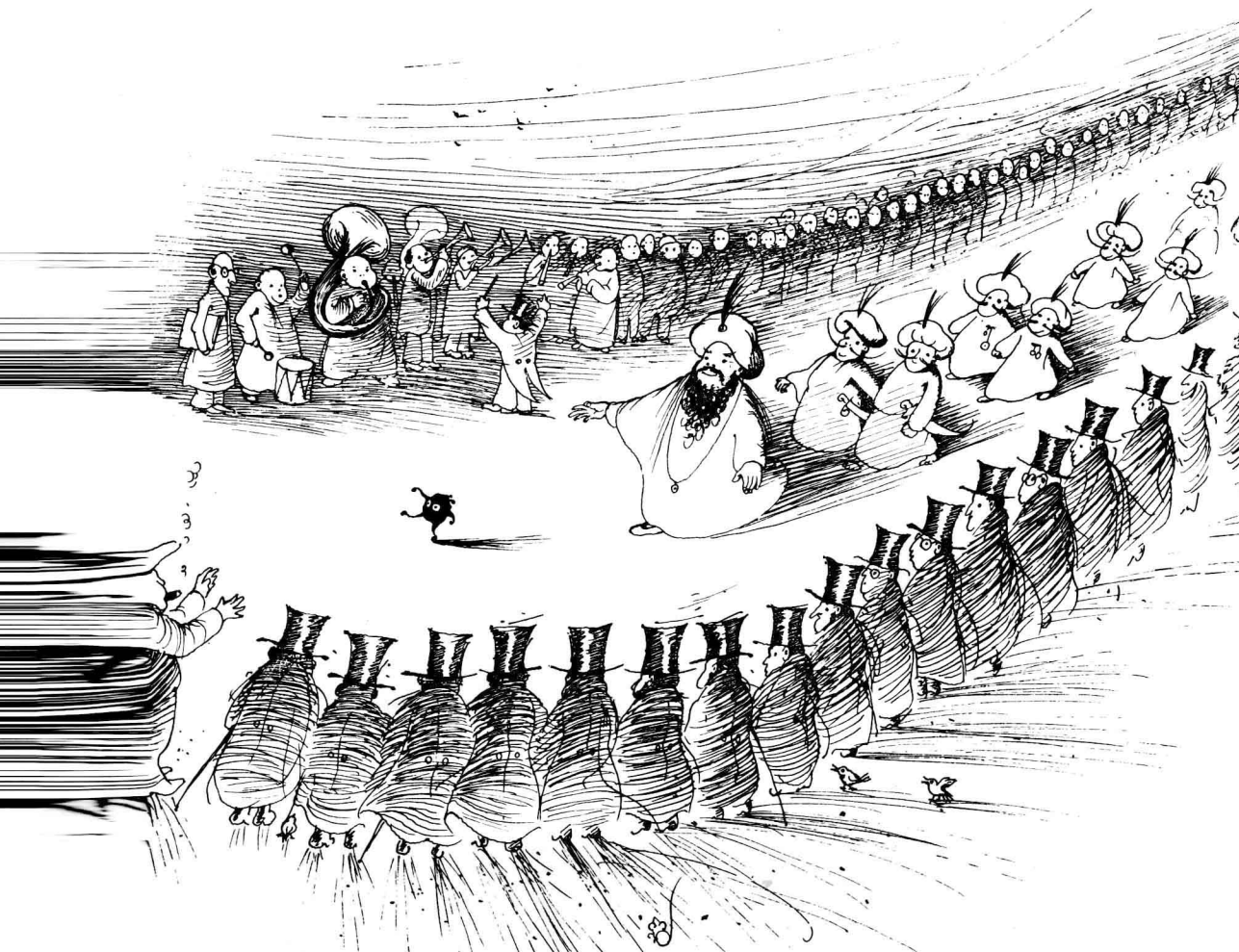
では、ページをめくってください。

まえかわ やすお





クリックスをせんとくに、王^{おう}さまのぎょ
うれつ^{たい}の大こうしんがはじまりました。



もくじ

クリックスのたんじょう……8

黒い足あと……16

クリックスにげる……22

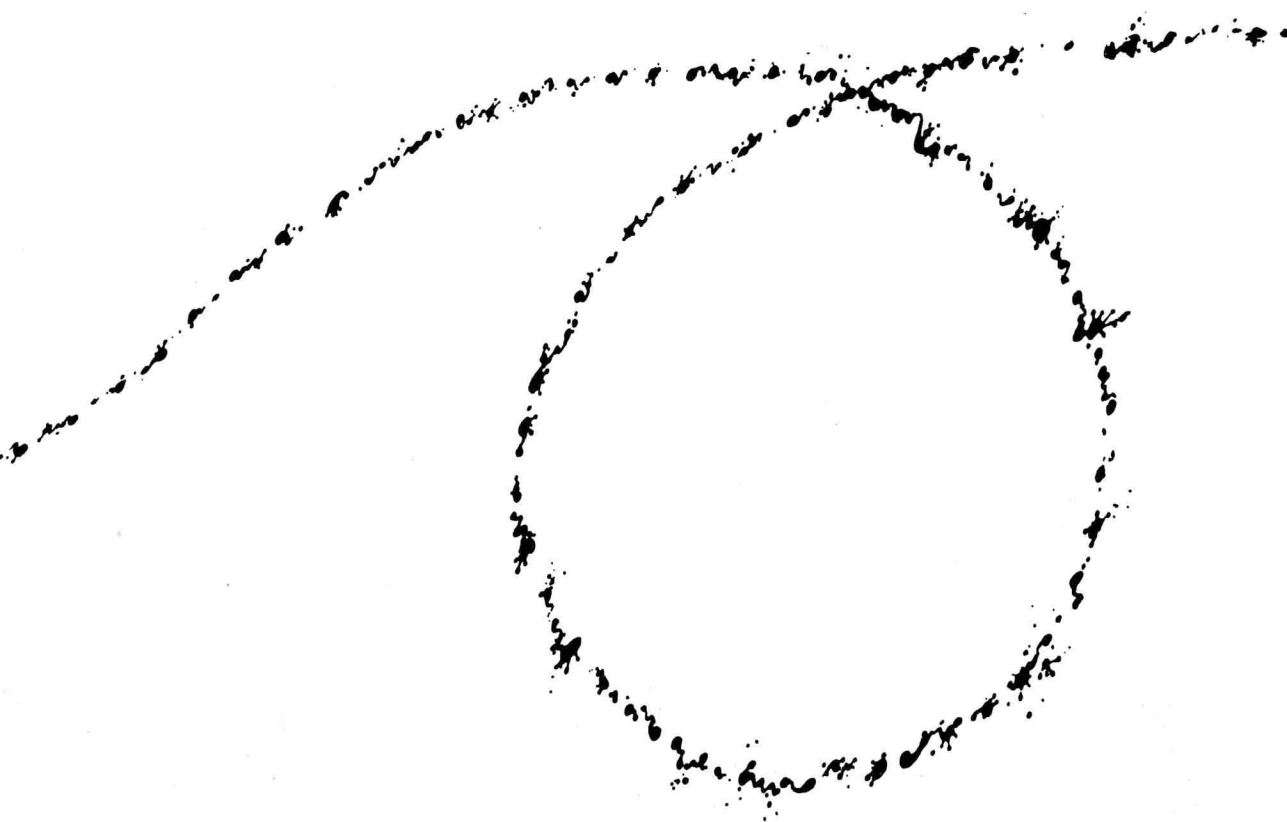
クリックスそらをとぶ……32

クリックスのうみのたび……38

ライオンと王さま……51

クリックス町へかえる……61

キャンバスにぺたっ！……72



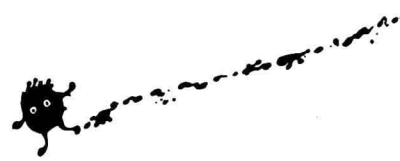


文・画 ストーエ

一九三八年、ベルリン近郊生まれ。二十才の時西ドイツに亡命。美術学校卒業後、児童書のさし絵画家として活躍。作者兼画家としての著書も多数ある。ハンブルグ在住。

訳 前川 康男

一九二一年、東京生まれ。早稲田大学ドイツ文学科卒業。現在、児童文学の創作および翻訳の分野で活躍。主な著書は「ヤン」（創作）「ウェンデリンはどこかな」（翻訳）





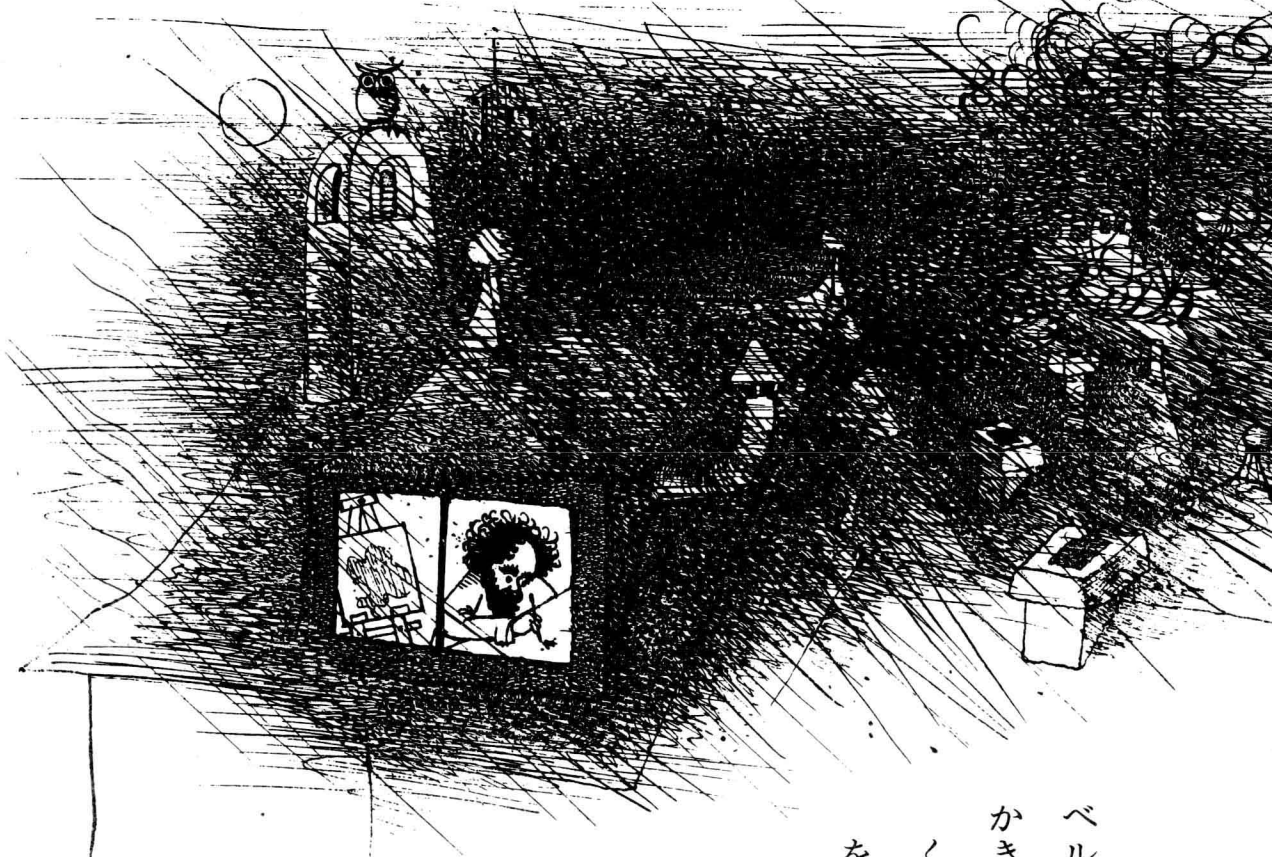
クリックスのたんじょう

雨^{あめ}のふる、ある夜^{よる}のことです。

えかきのベルトルドさんは、やねの下^{した}の、小^{ちい}さなへやで、えをかいていました。

なにしろ、たかいたかいやねの、すぐ下^{した}のへやですから、大^{おお}きな町^{まち}が、ひとめでみわたせます。

はげしい風^{かぜ}が、ガラス戸^どを、がたがたならし、雨^{あめ}が、ざざつ、ざざつと、ふきつけてきます。



ベルトルドさんは、びんぼうなえ
かきさんでした。さむくて、さむ
くて、ぶるぶるふるえながらえ
をかいています。

かり かり かり……。

これは、ベルトルドさんが、
ペンでえをかいている音おとで
す。

かり かり かり……。

さきのがったペンを、
黒くろインクにつぼにつっ
こんでは、かり かり
っと、ひっかくような

音をひびかせて、えをかいているのです。

かり　かり……ぴん！

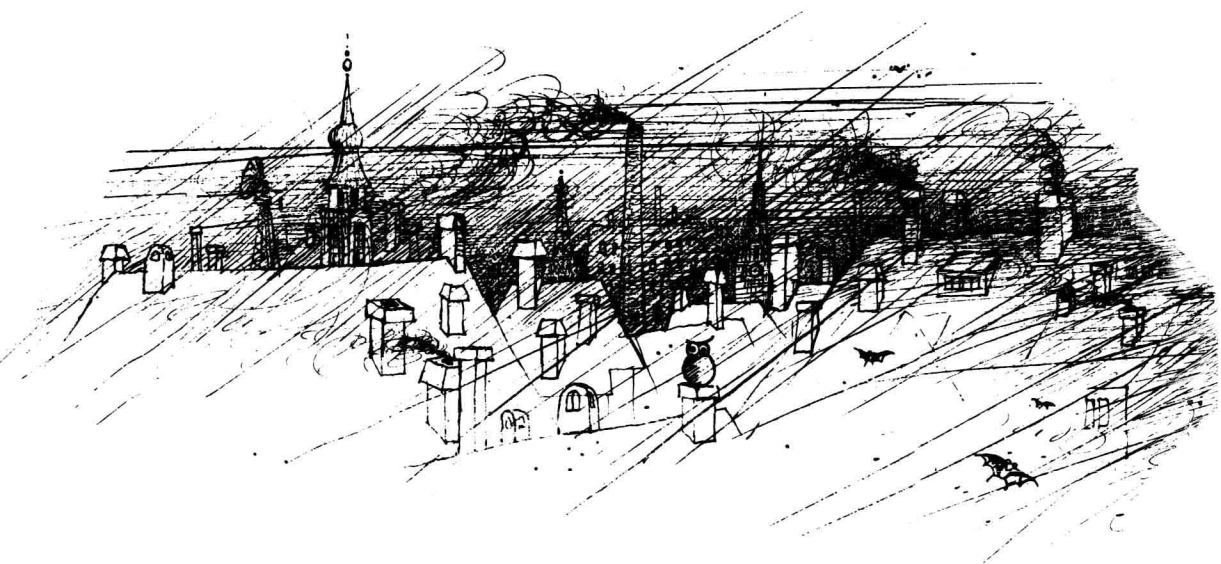
とつぜん、ペンのさきがおれて、まっ白しろいがようしの上に、ぼたっと、インクがおちました。大きな黒くろいしみができてしまったのです。

「ちえっ、しまった！」

ベルトルドさんは、はらをたてて、がようしをなげすてようと思いました。でも、「さてよ」と、がようしの上うへの黒くろいしみを、じつとながめました。

「ふーん、こりゃあ、まるで小人こじんみたいじゃないか。手もあるし、足もあるぞ。小さいけど、ちゃんと、二ふたつ目もある。それに、あたまにはけもある。うふ、ふ、ふ……、こりゃあ、おもしろい、まったく小人こじんみたいだ。」

ベルトルドさんは、インクのしみをみながら、わらっていました



が、しばらくすると、がようしを、ばりばりつとまるめ、まどをあけて、そとへぽーんとなげすててしまいました。がようしは、ころころつと、やねの上をころがっていきます。

ベルトルドさんは、まどを、ぴしゃつと、しめてしまいました。

黒いしみのついたがようしは、雨にながされて、だんだん、やねのはしの雨どいのほうへすべりおちていきます。雨どいは、水でいっぱいです。

雨はやみそうもありません。がようしはぬれて、びしょびしょになり、すすると、

雨^{あま}どいにながれこみました。

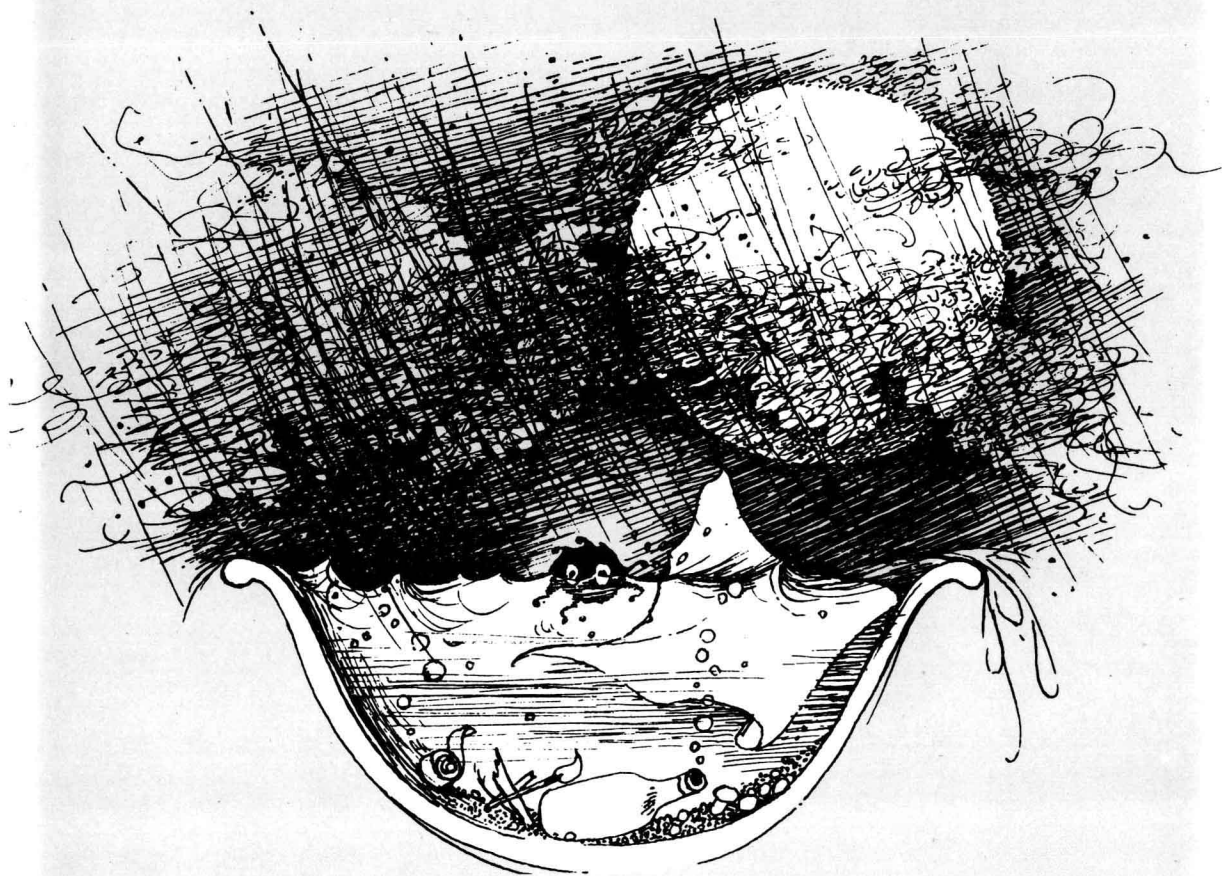
ところが、そのとき、がようしの中^{なか}から、なにか小^{ちい}さな黒^{くろ}いものが、もそもそつと、でてきたのです。

きらきらひかる目^め。あれ、あれ、どうでしょう、小^{ちい}さくて黒^{くろ}いものは、かえるみたいにおよぎはじめたではありませんか。

しみです。黒^{くろ}インクのしみです。

ほんとうです。うそじゃありません。あのがようしのしみが、およいでいるのです。きつと、雨^{あめ}にぬれて、インクがうきだし、がようしからとびだしたのでしょう。きつと、そうです。黒^{くろ}いインクのしみは、いきものみたいに、ばしゃ、ばしゃ、水^{みず}の中^{なか}をおよいでいます。

もし、だれかが、そのとき、雨^{あま}どいに耳^{みみ}をあてていたら、きつと、「うわーい、うわーい」っていう、かんだかいさけびごえがきこえ





たにちがいありません。

インクのしみは、雨^{あま}どいの中^{なか}をおよぎまわりながら、こんなことをつぶやきました。

「やれやれ、これが、いきるってことかい！ このよにうま
れてきたとたんに、水^{みず}の中^{なか}をおよがなければならなんて！ お
ぼれそうだよ、ぼくは、うでがほそいから、うまくおよげない
だ。目^めもちっちゃいから、くらくつて、よくみえないんだよ。ぶ
る ぶる ぶる……。つめたい水^{みず}だなあ。こんなことなら、うまれ
てくるんじゃないかった。」

そんなことをいつているうちに、黒^{くろ}いインクのしみは、くるくる
つと、うずにまきこまれ、

ごおっ……。

たかいやねから雨^{あま}どいをとおって、下^{した}へおちていったのです。



黒いしみは、じめんに、ぽちゃんとおちました。いえ、ぽちゃん
とではありません。

「クリックス！」

そんな音がしたのです。

クリックス……クリックス……。

黒いしみは、ほそい足でたちました。

「そうだ、いいことをおもいついたぞ。ぼくは、クリ
ックスっていうなまえにしよう。クリックス クリッ
クス……、ほらね、ぼくがあるくと、クリックスって
音がする。クリックス、えへん、どうだい、いいなま
えだろう。」

黒いしみは、うれしそうにわらいながら、クリック
ス クリックス クリックスと、あるいていきました。